

さらに、教職員が自分で希望して受けることのできる教育課題解決に向けての希望研修や教職 4 年目以上 10 年以下の若手教師が学ぶ熊本市教師塾「きらり」を行っています。

このように教育センターでは、様々な研修を実施し、研修で学び得たことを実践にいかせるようにしております。

⑥ 全国学力調査結果を、どのように役立てておられますか。また、学校毎の結果公表は。

(回答 指導課)

調査結果は、次のように活用しています。

1 学校の取組

- ・子どもへの個人票の返却と指導、保護者への概要説明
- ・自校の結果の全職員による把握・分析及び課題の検証
- ・授業改善・学力充実対策の実施(NRTの結果分析も含める)

2 教育委員会の取組

- ・学校へ、結果活用の指導・助言
- ・授業改善の方向や授業の具体例を示した「授業改善資料」の作成 授業改善資料作成委員会の設置

全国学力学習状況調査の問題及び結果の分析

なお、本市では、熊本市全体の調査結果については分析を行うとともに公表しておりますが、学校の序列化に繋がる懸念があることや過度の競争に繋がる懸念されるためから、学校毎の結果公表は行っておりません。

3 健やかな体の育成に関して

① 子どもの体力・運動能力の向上に向け、成果はあがっていますか。

(回答 健康教育課)

新体力テストの結果等から成果は徐々に上がっていると認識しています。

平成 18 年度から 8 年間全小中学校から毎年 20 校程度「体力向上実践校」に指定し、体力向上のための取り組みを実施していただき、実践発表を通しその取り組みを普及してきました。また、平成 24 年度から体力向上ステップアップポスターを配置し、学校の要望に応じて指導及びアドバイスを行ってきました。その結果、昨年度の新体力テストの結果については、小中学校ともに全国平均を上回る種目が増えている状況です。

② 幼少期から裸足であるかせることで、体幹トレーニングにもなり、平衡感覚を鍛えられると聞いています。運動会を裸足ですることはできませんか。

(回答 健康教育課)

以前は、ご意見をいただいておりますような理由から、裸足

で生活させる学校も多かったのですが、現代の生活習慣や生活様式の変化から、足の裏がうすく怪我しやすい児童が増えている状況であり、特に運動会等で突然に裸足で活動をさせることは、より怪我の確立が高まるのではと懸念するところです。

③ 部活動が社会体育に移行すると聞きました。今後どのように変わっていくのでしょうか。

(回答 健康教育課)

現在、熊本市教育委員会において運動部活動のあり方検討部会を立ち上げ、校長先生方に検討していただいている状況です。現時点では、社会体育への移行について結論は出ておりませんが、県の動向を確認しながら、方向性が示せるように協議してまいります。

④ 運動部活動では保険の加入が必須と聞きましたがそうでしょうか。P 災は加入済です。

(回答 健康教育課)

運動部活動を含めた学校教育活動においては、当該活動中の負傷であれば日本スポーツ振興センターの給付対象となりますが、現在の各種競技の大会については、部活動(学校教育活動内)と社会体育の二面性を持っており、すべての負傷に対応するためには、必須ということではございませんが、PTA 活動における負傷給付の P 災以外の保険加入も対策のひとつとして考慮してもよろしいのではないかと思います。

4 教育環境の整備・地域社会との連携に関して

① 学校施設・設備の老朽化が進んでいます。早急の改善をお願いしたい。

(回答 施設課)

これまで、優先して取り組んできました小・中学校施設構造体の耐震化対策が、平成 25 年度で完了したことから、今後は老朽化の進む施設の改修を進めていきたいと考えております。平成 26 年度は、中学校体育館 2 校、プール 1 校の改築設計準備と小学校プール 2 校の築造に着手したところです。

また、校舎の改築や大規模な改修につきましては、文科省が進める「学校施設長寿命化改修」方針を踏まえ、今後、平成 30 年度までに本市学校施設の長寿命化計画を策定することとしており、現時点で具体的にお示しすることはできませんが、児童生徒の安全性の確保を第一に、取り組みを進めていきたいと考えております。

→以下は次号へ

